顧客企業に頼られる金融機関になるために

～事業性評価とコンサルティング能力向上のための連続講座～

CHIHOMEN NEWS VOL.57

2020.1.29【済】　2.12【済】　2.26【延期】

◆ コンセプト

地域金融機関の取引先である中堅・中小企業の中には、経営課題について良質なアドバイスが提供されれば、状況が劇的に改善される可能性のある企業が多く、地域金融機関が目利き力を強化し、地域企業への支援を引き続き強く推進していくことが、地域の活性化に向けた重要な鍵となるとの課題認識から、企画がスタートしました。

◆ 講師紹介

講師には、追手門学院大学 経営学部長・教授である水野 浩児（みずの こうじ）氏をお招きしました。

水野教授は、地方銀行出身であり、様々な金融機関、支援機関において事業性評価の研修を行っておられるほか、企業の社外取締役も担っておられ、当該分野において非常に深い知見をお持ちでいらっしゃいます。

～開催に至るまで～

・「金融仲介機能の発揮に向けたプログレスレポート」（2019.8）の山形県における産官学金連携の事例を近畿管内で実施できないかを模索。

・同時に、ちほめんが地域金融機関が取引先に対してコンサルティングを行っている現場に帯同し、よりコンサルティングの重要性を認識。

↓

・水野教授を紹介していただき、企画を提案し、即快諾いただく！！

↓

・講座の内容、日程などの打ち合わせを実施。初回、11月の企画提案からトントン拍子に企画が具現化。

↓

・幾度となく行われた打合せを経て、1月29日（水）に第1回目を開催！

◆ 第１回　１/２９（水）

Theme

「地方創生における地域金融機関への期待、金融行政の変遷と地域金融機関職員に必要なスキル等」

本講座では、３回の連続講座で構成され、金融機関の実務担当者など71名の登録がありました。

初回の講座では、冒頭に主催者として理財部長の樽川から挨拶を行い、「近畿財務局ではこれまで創業支援や、ビジネスマッチングなどのイベントを行ってきたが、コンサルティングについてはノウハウがないため、今回の企画は水野教授の力を借り、非常にチャレンジングな企画」と述べました。

続いて、金融庁監督局地域金融企画室長の日下智晴氏から、「地域金融機関を取り巻く環境変化」についての講演。

「令和という新しい時代に変わり、令和の金融を一緒に創り上げよう」と金融検査マニュアル廃止が新たな金融に変わることと重ねて講演を行いました。

そして、水野教授から、「地方創生における地域金融機関への期待、金融行政の変遷と地域金融機関職員に必要なスキル等」をテーマとして講義が行われました。

導入はアカデミックに、そもそも債権とは何なのか、債権は債権者・債務者と協働で目的を達成するとした本質的意義を説明。出席者の「今日は堅い話なのかな・・・」との印象を、後に続く「実務を行う上で理解必要なスキルとアイテム（管理職の意識改革）」で完全に覆し、受講者からは「実務に沿った講義がとても参考になった」との声が多く聞かれました。

セミナー終了後も、講師に対する名刺交換が殺到し、積極的な意見交換が行われたことからも、金融機関における事業性評価やコンサルティング機能発揮というテーマへの関心の高さが伺えました。

【懇親会の開催～第1回目の講義終了後～】

懇親会では、約40名もの金融機関の方々にご参加いただき、講師の水野教授や日下室長、当局職員との交流のほか、金融機関職員の横の繋がりを作るきっかけとなりました。

この懇親会の場でも、参加いただいた方からは、「ロカベンを庫内で使用しようとしていたが、今回の講義がまさに役立つ」「アカデミックな内容だけでなく、実務に沿った講義で本当に良かった」「今回の講義を受けて、早速講師と連絡を取り、研修をお願いした」「全てが腑に落ちる内容で、次回以降の講座も楽しみ」との感謝の言葉をいただけました。

◆ 第２回　２/１２（水）

Theme

**「事業性評価に必要な定量分析とコミュニケーション能力
ローカルベンチマークの活用と対話のポイント」**

第２回目の講座では、水野教授から
「**金融機関職員が様々な取引先企業の専門的な業務知識を兼ね備えるには限界がある。**」とし、
「大切なのは、**経営者と対話できる最低限の財務知識やマーケティング知識を身につけ経営者との目線を合わせること**」と話がありました。

そして、事業性評価は、経営者からの信頼は必要不可欠であるとし、その信頼を得るための最低限身に付けるべき財務情報と会計知識を中心にご講義いただいた。
特に、会計知識については、金融機関職員が普段用いる財務会計の考え方より、管理会計の考え方を理解することが大切である、と力強く述べられた。
つまり、経営者は常に「原価をどう回収するか」が念頭にある。そのため、経営者の直感に見合った会計が管理会計であり、経営者と目線を合わせた対話を行うためには、管理会計の考え方を理解する必要があるとした。
この講義を受け、参加者の多くが「管理会計の考え方は今後の営業現場で十分に活かせる」と我々に述べた。

◆ 第３回　２/２６（水）【延期：時期未定】

Theme

「業種別事業性評価（定性分析）ポイント
定性分析に必要なマーケティングの基本知識　等」

第３回目の講座では、より具体的な内容で事業性評価に係る講義をいただく予定としていましたが、新型コロナウイルス感染のリスクを勘案し、やむを得ず延期となりました。

参加いただいた方からは、

- ３回目の講義が延期されたのは非常に残念ですが、**今後も水野先生の講義であれば、どのような内容でもまた参加させていただきたい**と思います
- 今回の講義では、今まで自分になかった視点からの気付きが多くありました。**第３回の開催とともに、来年度以降の内容等についても楽しみ**です

などと、大変ありがたいコメントをいただきました。

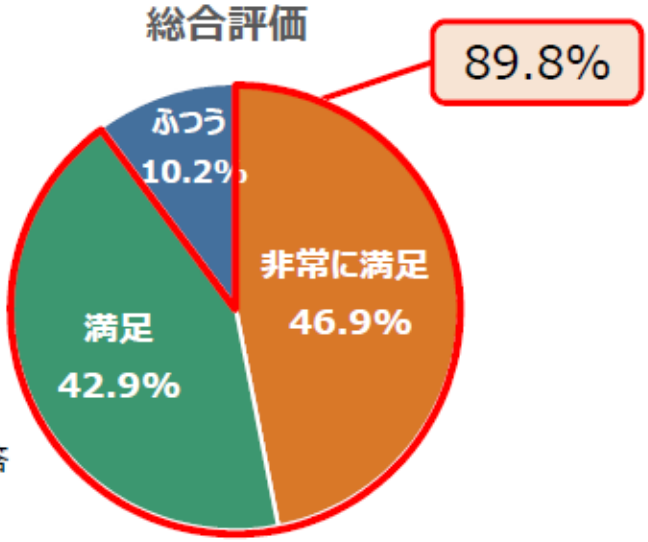
また、今回の講義に関して参加された方々にアンケートをお願いさせていただいたところ、

「総合満足度　約90%！！」

«参加人数の内訳»

銀行	14
信用金庫	47
信用組合	7
その他（公庫・会計士）	3
合計	71

※71人中、50人がアンケートに回答



なお、総合評価を「ふつう」とされている方のご意見としては、第３回目の講義を終えていないという理由のほか、講義のコマ数が少ないという理由でした。

今回のアンケートでは、参加された方の多くが、「講義を受けて良かった」と仰って下さっており、事務局（ちほめん）としても、関西の地域経済活性化のためにも引き続き水野教授の御協力を得ながら、頑張っていきたいと思います。

地域活性化に関する御要望がございましたら、
お気軽にお問い合わせください。

近畿財務局総務課企画係
06-6949-6390

ちほめんNEWSのバックナンバーは以下のURLからご覧になれます。
https://lfb.mof.go.jp/kinki/chiiki.html